

U.S. Indicators

米国 小売の拡大モメンタムはさらに強く(16年6月小売売上高)

発表日：2016年7月15日(金)

～雇用・所得環境の改善、マインドの安定、金利の低下等が支え～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)					非耐久財関連 (*2)		ガソリン
			除く車	自動車	家具	家電	衣料品			
15/11	+0.3	(+1.6)	+0.2	+0.6	+0.5	▲0.4	▲0.9	+0.1	+0.9	▲2.0
15/12	+0.4	(+2.8)	+0.5	+0.7	+0.1	+0.5	▲2.0	+0.1	▲0.2	▲0.4
16/01	▲0.5	(+2.8)	▲0.4	▲0.8	▲1.1	▲0.5	+0.5	▲0.3	▲0.0	▲3.1
16/02	+0.3	(+3.6)	+0.2	+0.6	+0.7	+0.4	▲0.1	▲0.2	+0.6	▲5.2
16/03	▲0.3	(+1.7)	+0.4	▲2.2	▲3.1	▲0.1	+0.4	+0.7	▲1.0	+3.7
16/04	+1.2	(+3.0)	+0.9	+1.4	+2.6	+0.5	+0.1	+1.3	+0.2	+2.7
16/05	+0.2	(+2.2)	+0.4	▲0.8	▲0.5	▲0.1	+0.4	+0.7	+0.8	+2.2
16/06	+0.6	(+2.7)	+0.7	+0.9	+0.1	+0.5	+0.0	+0.6	▲1.0	+1.2

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

6月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.6%と加速

16年6月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.6%（前月同+0.2%）と加速し、市場予想中央値の同+0.1%を大幅に上回ったが、4、5月合計で0.4%下方修正されており、実態は概ね予想通りの内容。内訳をみると、衣料品、飲食店が減少に転じたうえ、家電が鈍化した。一方で、自動車・同部品、家具、建設資材、百貨店など一般小売、その他小売が増加に転じたほか、食品・飲料、薬局が加速した。また、ガソリンスタンド、スポーツ用品・本・趣味用品、通信販売は鈍化したものの、高い伸びを維持した。

6月の小売売上を取り巻く環境は、雇用者所得の増加、マインドの安定、金利の低下など良好だった。このような中、企業の積極的な販促、住宅販売の堅調さ等により、売上が押し上げられた。

6月の小売・飲食サービス売上高では通信販売が最大の押し上げ

6月小売売上高の前月比(+0.58%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態は、衣料品(▲0.04%)、飲食店(▲0.03%)にとどまった一方で、プラス寄与の業態では、建設資材が+0.25%と最大の押し上げ寄与となった。他では寄与度の大きい順に、通信販売が+0.12%、ガソリンスタンドが+0.09%、食品・飲料が+0.07%、百貨店を含む一般小売が+0.05%、薬局が+0.04%、その他小売りが+0.02%、自動車・同部品が+0.01%、家具が+0.01%、スポーツ用品・本・趣味用品が+0.01%と続いた。なお、家電は0.00%。

6月のコア小売売上高は同+0.4%に小幅鈍化も堅調

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.7%（前月同+0.4%）と加速し、市場予想の同+0.4%を上回ったうえ、4、5月合計で0.1%上方改定された。家具、建設資材、百貨店など一般小売、その他小売が増加に転じたほか、食品・飲料、薬局が加速した。さらに、ガソリンスタンド、スポーツ用品・本・趣味用品、通信販売は鈍化したものの、高い伸びを維持した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材

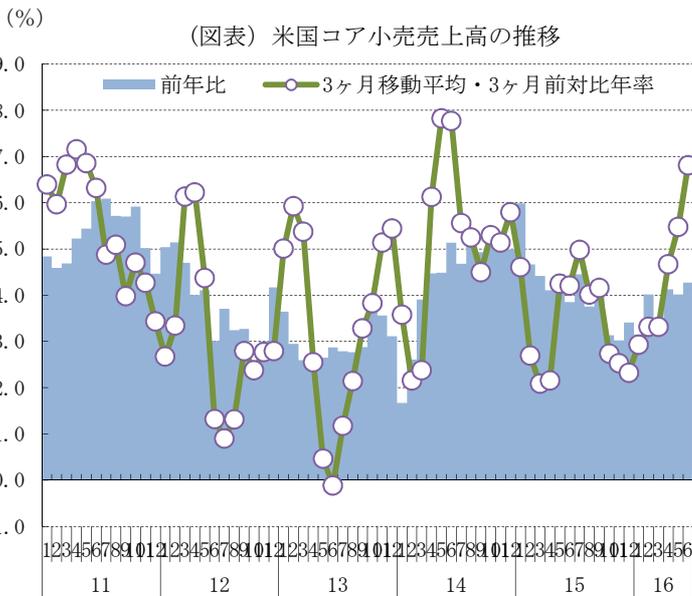
を除く小売・飲食サービス売上高)は、前月比+0.4%(前月同+0.5%)と減速したが、高い伸びを維持した。家具、百貨店など一般小売、その他小売が増加に転じたうえ、食品・飲料、薬局が加速した。また、スポーツ用品・本・趣味用品、通信販売は鈍化したものの、高い伸びを維持した。

**コア小売売上高は、3
ヵ月移動平均・3ヵ月
前対比年率+6.8%と
加速**

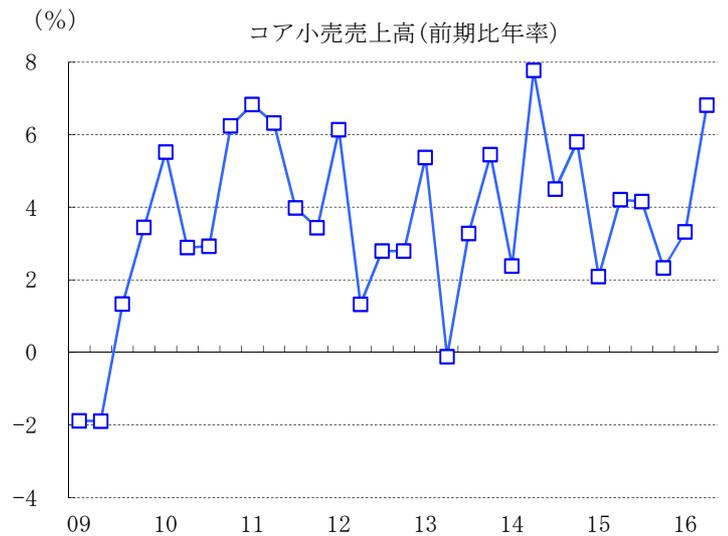
小売売上高のモメンタム(3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率)をみると、小売売上高の基調を示すコア小売売上高(自動車・ガソリン・建設資材を除く小売・飲食サービス売上高)は、+6.8%(前月+5.5%)と加速しており、コア小売売上高のモメンタムは強まっている。また、四半期では、コア小売売上高は、4-6月期(平均)に前期比年率+6.8%(1-3月期前期比年率+3.3%)と大幅に加速した。

**4-6月期の実質個人
消費は前期比年率+
4.3%に加速へ**

4-6月期の個人消費については、4-6月期(平均)のコア小売売上高が1-3月期比年率+6.8%(1-3月期前期比年率+3.3%)と加速しており、耐久財消費が増加に転じ、非耐久財消費が加速したと見込まれる。また、サービス消費は電力消費の拡大、余暇サービス関連支出の増加傾向等を背景に、拡大したと想定される。以上より、4-6月期の実質個人消費は前期比年率+4.3%と1-3月期の同+1.9%から加速し、同期の実質GDPの再加速に寄与する公算が大きい。

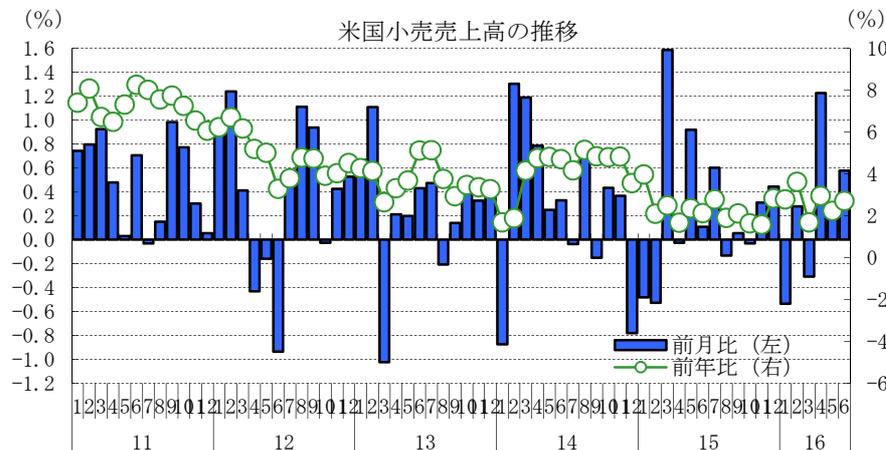


(出所) 米商務省



(出所) 米商務省データより作成。

(注) コア小売=建設資材・ガソリン・自動車を除いた小売売上高 (四半期)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。